

群馬県議会 リベラル群馬

街頭演説1000日  
県政の革命児!

県議会だより

# 後藤かつみ

vol.21

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所  
住所 高崎市八幡町800-24  
TEL&FAX 027-343-1393  
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com  
http://www.ccrgoto.com/



昨年の本会議質問で公共交通を軸としたコンパクトシティへの転換を訴える。

## 後藤の本会議質問以降、 待望のビジョン策定

群馬県は市街地における人口密度が全国45位と、隣県(栃木・28位、茨城31位)と比べても著しく「薄く広い」都市構造となっており、「日本一のマイカー王国」と呼ばれる一因でもあります。

後藤は、昨年の本会議質問において、これから少子高齢化で税収も伸び悩む時代を迎える中で、①郊外に薄く拡がったインフラ(道路・下水道など)を整備・維持管理するコストがかさみ、財政に重い負担としてのしかかる。②公共交通と商店街や身近な小売業の衰退により、「買い物弱者(現状でも本県で11万人)」など高齢者の生活がおよびやかされる問題が深刻となる。③2点の問題を指摘し、まちづくりのあり方を根本から見直す必要があると訴えました。

## 公共転換機に期待



富山市のまちづくりのあり方を視察。都市計画図をにらみながら議論。

## 公共転換機に期待

# まちづくり政策を大きく転換 県が「まちづくりビジョン」の素案を示す

## 根強い異論に的確に答えるビジョンが必要

コンパクトシティの考え方に對しては、「都市周辺部・農村地域を切り捨てるのか」といった根強い異論がありま。特に合併前の旧町村部からそのような指摘が予想されます。

しかし、これは誤解で、むしろ昔ながらの地方のあり方を目指すものです。高崎市を例にとれば、榛名や倉瀬などの旧町村部もかつては役場等の周辺に商店街等の都市機能が集中し、住民に身近なところで経済活

## 街中に都市機能集積 人口減、高齢化に対応

人口減少と少子高齢化社会に對する、高年齢者福祉の増加、住民の減少が見込まれる。校外分散型を軸としたまちづくりの素案を初めて策定し、市町村と連携し、公共交通を中心とした「身近で顔が見える」まちづくりに政策転換が行われることが期待されます。

コンパクトシティの考え方に對しては、「都市周辺部・農村地域を切り捨てるのか」といった根強い異論がありま。特に合併前の旧町村部からそのような指摘が予想されます。

6月16日  
上新開  
より抜粋